

ご縁

小林 斗吾



令和4年11月に私は二十歳を迎えました。思い返せば、中学生の頃友達と早く高校生になりたいね、とか高校生になれば、早く大人になりたいね、などいつも先の未来についてばかり話していた記憶があります。いつの間にかあっという間に高校も卒業し、大学へ進学、そして就職と、今まで以上に環境の変化を身に染みて感じています。二十歳までの人生を思い返してみれば私の人生の半分は野球で埋まっていました。なので学生の頃の思い出となると真っ先に部活が思い浮かびます。小学、中学とずっと同じチームで戦ってきた仲間、友達とまさか高校生活最後の大会の準決勝の場で戦えたことは私の野球人生で大きな財産です。もちろん今でも変わらず、その友達とは昔と同じように何も変わらずに笑って話してを繰り返す日々です。

社会人になって、考えてみればこれまで、二十歳までの人生、数えきれないほどのご縁があって今があるといろいろな場面で身に染みて感じています。今の友に出会えた事、玉川村で生まれ育った事、先生、地域の方、そして家族、何か1つでも欠けていれば今の自分はなかったのかなと思います。「ご縁」が何か1つあるとないでは人生も大きく変わってしまうと思います。素敵なお縁に囲まれながら、支えられながら育ってきたからこそこの今があるという事を忘れずに、今後の社会としての人生を華やかに送っていきたいです。

最後に、お父さん、お母さんこれまで20年間、数えきれないほどの愛をありがとう！少しずつ恩を返せていけたらなと思っています。どうかこれからもよろしく願います。